

特別賞（NHK 釧路放送局賞）

「後悔のない人生を」

遠軽町立南中学校 三年 草野 杏奈

「自分って何だろう」そう思うことがあります。私には自分らしさというものがなく、人にとってつまらない人間でした。私が子供の頃から父と母の仲が良くなく、ほぼ毎日喧嘩ばかりで苦痛でしかない日々を送ってきました。母は失敗ばかりで少しだらしないところがあり、それに対して父がそこまで言うかというほど怒鳴る日々。子供の頃は、まだ物心がついていないので喧嘩の状況がどれだけ深刻かわからずにいましたが、日が進むにつれて次第にわかるようになっていき、事の大きさに気づき始めていきました。そして、「自分も怒られたくない」と自分を守る行動しかとれず、喧嘩する所をただ黙って見ることしかできませんでした。そういう性格が学校にも出るようになり、周囲の目を気にしてしまって、友達関係でも自分から話せず、話しかけようとしても「迷惑かな」「何か嫌なこと言われるかも」と思うばかりで一步を踏み出せないままでいました。

小学生の頃、学校での生活は一人であることが多くて、暇ができれば図書室で本を読むなどのことしかできていませんでした。ですが小さな出来事で一人の友達ができました。その子とは、次第に仲良くなっていき「楽しい日々が自分にも来た」と思っていました。ですが、いつからか悪口を言われるようになり、また一人になってしまいました。毎日その子にまた悪口を言われなかと怯えながら過ごす日々。私に聞こえるように陰で「気持ち悪い」といつかきたり、急に「買い物一緒にいこう」といわれ、行ってペンを買おうとしたら、たまたま同じペンをその子も買おうとしていて私に向かって「マネしないで」「違うの買えばいいじゃん」と自分勝手なことを言われ、泣きそうになりました。このことを親にも相談できず、迷惑はかけたくないと思ってしまいました。学校でも家でも自分の居場所がなく、「死んでもいいな」と思えるようになっていき、楽に死ぬ方法だって考えていました。でも、何度考えてもそれはできません。喧嘩をしている父と母、そして姉だって大事な家族。私が死んだら絶対悲しむだろうし、「この先何があるかわからない」と前向きに考え、頑張っ

た。そうしていき、中学校に入ったある日一人でいる私に話しかけてくれた子がいました。その子はノリがよく、こんな私でも笑顔にさせてくれる子です。この出会いをきっかけに友達の輪の中に入れてくれたり、話を振ってくれたりなど私を友達と話せられるように助けてくれました。だからこそ、この子のようになりたいと思い、頑張っ自分から話かけて、なによりも笑顔を絶やさないように過ごしました。そうして、今みたく前向きな性格に変われることができました。自分を変えさせてもらったその子に今でも感謝しています。

このことを経て、「自分はいらぬ存在だ」「生きるのが本当につらいよ」と思っている方、今つまずいて挫折している方に、「諦めなぬで」と伝えたいです。私のようにつらい時があつて泣きたいほどもう頑張れぬと思う時があつたら、泣いてもいいのです。我慢していたら自分が壊れてしまうので、素直になつてたくさん泣いてください。でも、そこから「自分はよく頑張っている。また頑張るぞ」と諦めなぬで前に進んでください。私たちがすべきことは生きるのを諦めることじゃなく、つらい今を乗り越えてまだ何が起るかわからない未来に向かつて少しずつ歩いていくことです。そして、つらいこの経験を未来に生かすことです。その経験があつたからこそ、それを糧にして「頑張ろう」と思えるようになっていきます。それでもつらいという方、誰かを頼ってください。人生、生きていくうえで一人つてことは必ずありません。きっと誰かが力になってくれます。あなたは一人じゃない。それを知つてほしいです。あともう一つ、自分の好きなことを探してみてください。私は友達のおかげで変わりました。その前、一人でいるときは自分の好きなことがあつたからこそ諦めなぬでいられました。そのために頑張れたので、楽しい気持ちでいることができました。なので、ぜひ今好きなことがある方はそれを貫きとおして、好きなことがないという方は見つけてみてください。過ごしていくうちに、偶然見つかるともしれません。

今の私の人生のモットーは「人生は一度きり。後悔のぬないように生きる」です。人生何が起るかわかりません。ただ、つらい日々だけが續いていくことがないのはわかります。今の自分を頑張つて諦めなぬで生きていつたら、その先には本当の自分が、笑顔でいる自分が待っているはずです。絶対…